参考資料4

平成28年度地域懇談会 結果概要

1 地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」の進行管理に当たり、地域別の主要施策（第4章）を中心に、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を聴取し、その意見を地域別の主要施策の進行管理に反映させるとともに、政策分野別の主要施策（第3章）や重点プロジェクト（第5章）の進行管理に資するものとする。

2 懇談テーマ

（1）テーマ1（地域の課題） 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

（2）テーマ2（県全体の課題） 若い世代の地元定着・地元回帰に向けた課題や取組、方向性など

3 開催地・日時

開 催 地 域	日 時 ・ 場 所	総合計画審議会 出席委員
（1） 県北地域	［日時］ 平成28年7月15日（金） 14:00～16:00 ［会場］ 中町ビル2階 大会議室（福島市中町1-19） ［主催］ 県北地方振興局 ［意見発表者］ ・安齋 さと子 （全国女性農業経営者会議 顧問） ・伊東 千賀子（本宮市子ども・子育て会議 委員） ・海老原 嗣 （だて青年会議所 財政局長） ・菅野 雅博 （大原綜合病院 地域連携相談室長） ・齋藤 修 （福島信用金庫 営業推進部副部長兼相談統括課長） ・高木 史織 （二本松市地域おこし協力隊）	今泉 裕 委員 （日本労働組合総連合会福島県連合会長） 大泉 太由子 委員 （一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム理事）
（2） 県中地域	［日時］ 平成28年8月8日（月） 10:00～12:00 ［会場］ 郡山合同庁舎3階 第1会議室（郡山市麓山1-1-1） ［主催］ 県中地方振興局 ［意見発表者］ ・稲福 由梨 （福福堂） ・菅家 元志 （株式会社プレイノベーション 代表取締役社長） ・田代 嘉宏 （羽鳥湖高原レジーナの森 代表） ・蛭田 裕明 （石川郡連合PTA会 会長） ・別府 禎子 （公益財団法人星総合病院法人事業本部教育研修センター 係長） ・横山 敦 （福島県建設業協会須賀川支部 支部長）	小林 清美 委員 （福島県婦人団体連合会会長） 高瀬 佳苗 委員 （福島県立医科大学看護学部教授）
（3） 県南地域	［日時］ 平成28年7月8日（金） 10:00～12:00 ［会場］ 白河合同庁舎3階 303会議室（福島県白河市昭和町269） ［主催］ 県南地方振興局 ［意見発表者］ ・青砥 和樹 （EMANON準備室 理事長） ・伊藤 千陽 （NPO法人あぶくまエヌエスネット） ・渡邊 史郎 （NPO法人白河ふるさと回帰支援センター 理事長） ・石田 信哉 （株式会社林養魚場 場長） ・丸山 美佳子（小料理屋さかな屋） ・古川 雅裕 （株式会社大黒屋 代表取締役）	轡田 倉治 委員 （福島県商工会連合会長）
（4） 会津地域	［日時］ 平成28年8月8日（月） 13:30～15:30 ［会場］ 会津大学 先端ICTラボ LICTiA 2階カンファレンススペース （福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合90） ［主催］ 会津地方振興局 ［意見発表者］ ・神田 武宜 （株式会社湯川会津坂下 取締役・道の駅あいづ湯川・会津坂下 駅長） ・竹内 樹美 （樹ie工房 代表） ・堀内 久美 （瀞流の宿かわち 女将） ・堀口 一彦 （にしあいづ観光交流協会 事務局職員） ・三浦 健太郎（三島町（産業建設課産業係）主事） ・横田 純子 （特定非営利活動法人素材広場 理事長）	馬場 久一 委員 （福島県森林組合連合会理事） 瀬田 弘子 委員 （有限会社会津六名館取締役）
（5） 南会津地域	［日時］ 平成28年7月26日（火） 14:00～16:00 ［会場］ 南会津合同庁舎2階 会議室 （南会津郡南会津町田島根小屋甲4277-1） ［主催］ 南会津地方振興局 ［意見発表者］ ・鈴木 亜希子（大内宿 民宿伊勢屋 前大内婦人会長） ・高木 正貴 （南郷トマト生産組合監事） ・平野 崇之 （民宿・裁ちそばかどや 尾瀬ガイド） ・星 利一 （南会津町たのせ区長） ・脇坂 斉弘 （合同会社ねっか 代表社員） ・永井 恵 （株式会社EWMファクトリー 南会津開発センター）	瀬田 弘子 委員 （有限会社会津六名館取締役） 伴場 賢一 委員 （一般社団法人Bridge for Fukushima代表）

開 催 地 域	日 時 ・ 場 所	総合計画審議会 出席委員
（6）相馬地域 ※ 南相馬市、相馬市、新地町、飯舘村	［日時］ 平成28年7月29日（金） 13:30～15:30 ［会場］ 環境創造センター 環境放射線センター1階大会議室 （南相馬市原町区萱浜字巣掛場45の169） ［主催］ 相双地方振興局 ［意見発表者］ ・菊地 将兵（大野村農園代表） ・菊地 基文（沖合底引き網漁船清昭丸船主、そうま食べる通信共同編集長） ・武藤 琴美（バリアフリーシアタージャパン代表、 南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員） ・森岡 和人（一般社団法人原町青年会議所事務局長） ・大内 広行（相馬共同火力発電㈱新地発電所・新地町立尚英中学校PTA会長） ・太田 陽子（新地町総合計画審議会委員、福田婦人会長、新地町社会教育委員） ・佐藤 健太（飯舘村商工会青年部部長）	久保 美由紀 委員 （会津大学短期大学部社会福祉学科准教授） 樋口 葉子 委員 （ふくしま子育て支援ﾈｯﾄﾜｰｸ代表世話人）
（7）双葉地域 ※ 双葉郡8町村	［日時］ 平成28年8月5日（金） 13:30～15:30 ［会場］ いわき合同庁舎4階 大会議室（いわき市平字梅本15） ［主催］ 相双地方振興局 ［意見発表者］ ・西本 久雄 （広野まちづくり会議委員、広野昇龍太鼓代表） ・鈴木 謙太郎（木戸川漁業協同組合鮭ふ化場長・鮎中間育成場長） ・遠藤 義之 （株式会社観陽亭代表取締役、ふたば商工（株）取締役） ・井出 裕子 （株式会社ダノニー代表取締役、川内村第四次総合計画策定委員） ・酒井 和枝 （大熊町教育委員会社会教育指導員） ・福田 一治 （双葉町結婚対策協議会会長、元復興推進委員会委員） ・戸川 聡 （浪江町復興事業協同組合専務理事、東北工業（株）代表取締役） ・松本 順子 （葛尾じゅうねん企業組合理事長）	土方 吉雄 委員 （日本大学工学部准教授） 早矢仕 恵子 委員 （ふたばｸﾞﾘｰﾝﾚﾃﾞｨｽﾈｯﾄﾜｰｸ2000代表）
（8）いわき地域	［日時］ 平成28年7月26日（火） 13:30～15:30 ［会場］ いわき合同庁舎4階 大会議室（いわき市平字梅本15） ［主催］ いわき地方振興局 ［意見発表者］ ・蛭田 秀史 （いわき農業青年クラブ連絡協議会会長） ・佐藤 弓子 （いわき商工会議所女性会会長） ・小野 真弓 （（福）いわき市社会福祉協議会 社会福祉課主事） ・佐藤 毅 （小名浜まちづくり市民会議会長） ・吉田 恵美子（NPO法人ザ・ピープル理事長） ・根本 麻美 （（一社）いわき観光まちづくりﾋﾞｭｰﾛｰ観光振興課ｻﾝｼｬｲﾝ博担当） ・久保木 幸子（福島県漁協女性部連絡協議会会長） ・芥川 一則 （（独）国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校副校長）	和田 佳代子 委員 （いわき地域環境科学会副会長） 前澤 由美 委員 （NPO法人いわき緊急ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ理事長）

4　主な意見等

（1）テーマ1（地域の課題）　地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

No	地　域	発言者	意見等	分　野
1	県北地域	意見発表者	震災前から果樹園を経営し、子どもの見学受入、果樹のオーナー制度、首都圏の大学生体験ツアーなどに取り組んでおり、震災後はかなり落ち込んだが、現在はかなり回復してきている。	観光・交流
2	県北地域	意見発表者	本県を訪れた首都圏の大学生から、家族から福島へ来ることについて心配の声もあったと聞いている。福島県で農林水産物のモニタリング検査を行っていることをもっと情報発信しなければならない。	観光・交流
3	県北地域	意見発表者	新規就農者が増えているが、規模を拡大しようとしても労働力の確保が難しい。	農林水産業
4	県北地域	意見発表者	介護や老人ホームに入れない待機老人の問題で、働くことのできないお嫁さんも多い。	産業・雇用
5	県北地域	意見発表者	男性にも育児参加が求められているが、仕事盛りの30、40代で育休をとるのはなかなか難しい。	結婚・出産・子育て
6	県北地域	意見発表者	子育ては全て一様ではなく、家庭環境に合わせた支援が必要。 子育て関連のアンケート調査を見ると、20～40代は職場環境よりも児童手当の充実、10代は仕事と家庭の両立という希望を持っており、社会制度の充実が求められている。	結婚・出産・子育て
7	県北地域	意見発表者	保育士が不足しているが、待遇に問題があり、仕事の大変さに見合っておらず、なり手が少ないのが現状。	結婚・出産・子育て
8	県北地域	意見発表者	地域の課題解決のためのポイント① 「色々な人を巻き込んで事業を行うこと」…団体だけでなく、行政、学校、親を巻き込むことで、地域の人が「参加者」ではなく「当事者」という意識を持ってもらうことにつながる。	地域づくり
9	県北地域	意見発表者	地域の課題解決のためのポイント② 「地域資源を活かすこと」…伊達市がガイナックスと協力し行っているアニメ製作などのように、そこにしかないものを磨いて人を呼び込むという視点が重要。	地域づくり
10	県北地域	意見発表者	地域の課題解決のためのポイント③ 「経済効果を考えること」…町おこしをしても、単発で終わってしまっては意味がない。事業を維持し、経済効果として還元できるようにしなければならない。	地域づくり
11	県北地域	意見発表者	「地域包括ケア」…2020年には団塊の世代の高齢化に加え、人口減少が進み、医療、介護の需要がピークになると考えられる。課題解決のためには、「取組の可視化…医療、介護のタテヨコの連携のための仕組みづくり」「情報の一元管理…情報をいかに共有するか」「リーダーシップ…誰が実行するのか」が重要。	健康・医療・福祉
12	県北地域	意見発表者	「働き方、給与の選択」…福島県内は看護師が不足。“夜勤があるため家庭の事情などで働きたくても働けない人”がいる一方で、“夜勤もこなしバリバリ働いてがっちり収入を得たい人”もいる。時間選択制度や、院内保育所の整備など、雇用の受け皿を整えていくことが求められる。	健康・医療・福祉
13	県北地域	意見発表者	「医療機能分化」…病院もビジネス戦略が必要、MRIやPETなど高額機器は地域の病院内で資源をシェアするなど、病院経営が成り立つようにしなければならない。県内病院ネットワークを組織し、それぞれの病院でどのような機能があるかをオープンにして、必要なものを共有するようにしている。	健康・医療・福祉
14	県北地域	意見発表者	ビジネスフェアなどで福島県内の出展者のサポートをすることがあるが、福島県は他県と比べるとアピール不足。	産業・雇用
15	県北地域	意見発表者	震災前、福島県は東北では宮城県に続き2番目のGDP規模、震災後落ち込んだが、平成23年9月には復興施策により景気動向は上向き、平成24年6月には震災前を上回っている。 しかし、建設業など復興予算の効果がかなり大きいため、この景気がいつまでも続くわけではない。	産業・雇用
16	県北地域	意見発表者	花見山などの地域の観光資源をもっと活用していくべき。	観光・交流
17	県北地域	意見発表者	NPOなどに行政が事業を委託することが多いと思うが、NPO職員の収入が低く、NPO職員の生活基盤の安定が課題。	その他
18	県北地域	意見発表者	（地域おこし協力隊の制度を活用し）Iターンで東京から東和町に移住した。3年間生活が保障されているので、移住のきっかけとしては良い制度だと思う。	定住
19	県北地域	意見発表者	全国で移住が流行している中で、高知県などはかなり派手に宣伝をしているが、福島県の強みとは何かを考える必要がある。どんな人を呼んでどんな地域をつくりたいか、描き切れていない。	定住
20	県北地域	意見発表者	福島に思いがあって来たい人はいると思うが、窓口や受入の情報がわかりづらい。受け入れる側でも体制が整っていない場合もある。	定住
21	県中地域	意見発表者	6次化のアイデアを持っていたとしても、規模の小さい個人農家ではそのアイデアを実現する事が出来ない。現行の6次化支援は主に“法人向け”だが、“個人向け”などにも広げるべきではないか。	農林水産業

22	県中地域	意見発表者	山ぶどう農家のお手伝いをさせてもらっているが、かつて30軒程度あった山ぶどう農家が、現在では3軒となり、かつ高齢化が進み、このままだと産業が途絶えてしまう。	農林水産業
23	県中地域	意見発表者	「担い手の確保」や「農業だけでも生活できる仕組みづくり(儲かる農業)」を官民で協力して進めていくことが必要。例えば、原発事故を踏まえ、震災前に県内で推奨していた「有機農業」に立ち返るとか、ベンチャー企業の参入など。	農林水産業
24	県中地域	意見発表者	滝桜やわらじ祭りなど、季節的な観光資源があるが、有機的な結びつきが弱い。情報発信や呼び込みだけではなく、ターゲットを絞り、エリア全体の観光キャンペーンを継続的に進めていかなければならない。	観光・交流
25	県中地域	意見発表者	首都圏からのお客様は戻ってきつつあるが、まだ、風評の影響が残っている。また、県内の観光業界では、「DCの影響力はさほどない」という声が聞こえる。	観光・交流
26	県中地域	意見発表者	インターネットやSNSに子どもが熱中し過ぎており、大人が管理できないところまで進んでいる。関連する犯罪・事件も増えており、危険と隣り合わせの状況のため、保護者を対象とした勉強会を開催するなどの対策が必要。	結婚・出産・子育て
27	県中地域	意見発表者	都市部から医療従事者を引っ張ってこれないのは、どこの自治体でも同じこと。いかに県民が県内で医療従事者として働いてもらうか、いかに子供たちに地域に残ってもらうかが重要。	産業・雇用
28	県中地域	意見発表者	建設業は震災直後に急激に仕事が増えたが、復興が進むにつれ、徐々に発注件数が減ってきている。	産業・雇用
29	県中地域	意見発表者	若手の職人や現場監督員がおらず、現在の体制で維持していくのも限界に近づいてきている。	産業・雇用
30	県中地域	意見発表者	地元の建設業を維持していくためにも、発注件数激減等がないよう緩和措置等を考えて頂きたい。	産業・雇用
31	県中地域	意見発表者	消防団などの団体への入団を嫌う若者が多く、それを理由に「地元に帰る」という選択肢を狭めている可能性がある。	定住
32	県南地域	意見発表者	県南地域には大学がない。そのため、カフェに地元の高校生を集め、その高校生たちが大学生になったときに地元で活動してもらうためのの下地づくりを行っている。	教育
33	県南地域	意見発表者	福島や白河は首都圏の人たちにとっては「通過地点」であり、「到着点」ではない。	観光・交流
34	県南地域	意見発表者	白河を売り出すための「明確なターゲット」「ブランド力」がない。	産業・雇用
35	県南地域	意見発表者	福島県県南地方で製造販売しているメープルサーモンは、東京では売れるが福島ではあまり売れ行きが良くない。	産業・雇用
36	県南地域	意見発表者	(養魚場)社員を全国から募集しているが、県外の方からは「福島は大丈夫か」と心配する声があった。	風評・風化
37	県南地域	意見発表者	地元に住んでいる人は「ここには何もない」というが、外から来た人々の目線だと、実は県南には魅力は沢山ある。	地域づくり
38	県南地域	意見発表者	白河には、映画の力、スポーツの力が足りない。	地域づくり
39	県南地域	意見発表者	白河には高卒の方が働ける職場(工場等)はあるが、大卒向けの仕事はあまり無い様に思える。	産業・雇用
40	県南地域	意見発表者	「自分の学んだことを職に活かしたい」という希望で職を探している人を呼び込みたい。	産業・雇用
41	県南地域	意見発表者	「何か仕事があれば白河に住みます。」ではなく、「〇〇がしたいから、白河に来ました。」といったように、具体的な目的を持って来ている人が白河には多い。そのような人をさらに首都圏から呼び込むためにはどうすればよいか。	定住
42	県南地域	意見発表者	地域としてのブランド力は長野県や山梨県が強い。福島県はじめ、各市町村もこれらの取組を参考にすべき。	地域づくり
43	県南地域	意見発表者	新幹線の駅があり、高速のインターチェンジもある白河市等は、ポテンシャルを秘めている。東京に日帰りの仕事にも行きやすく、通勤することも可能である。	定住
44	県南地域	意見発表者	東京ディズニーランドは値段が高くても、常に「目新しさ」があるため、毎年賑わいを見せている。県南地域もそれを真似ていくべき。	地域づくり
45	県南地域	意見発表者	矢祭町では、若者の町外流出が著しく、消防団などが維持できない状況になっている。	地域づくり
46	県南地域	意見発表者	町の会議や行事でも、年輩の方ばかりで若者(若者＝40代などではなく本当の若者)が参加できていない。	地域づくり
47	県南地域	意見発表者	働きたいというよりも「町の為に何かしたい」という若者も多く、それを叶える土台づくりが必要。	産業・雇用
48	県南地域	意見発表者	白河には大学がないので、思い切って福大の農学部を持ってくる等、大胆なことが必要。	教育
49	県南地域	審議会委員	地方に求められているのは「アイデア力」。このアイデアを市町村に盛り込み、予算化してもらう事が重要。	地域づくり

50	県南地域	審議会委員	大卒の若者が来ない理由は、専門的な勉強をしてきても地域で活かせる土壌がないため。	定住
51	県南地域	審議会委員	白河は「ブランド力」はあるが、「発進力（情報発信）」が弱い。	産業・雇用
52	会津地域	意見発表者	道の駅の運営もそうだが、中山間地域の活力回復も含め、行政と連携しお互いに利益のある形態を志向していくべきだと思う。課題は、地元のお客様と、県外など地元以外のお客様とのバランスをとった活動をしていくことである。	観光・交流
53	会津地域	意見発表者	古民家、空き家対策は、県外からの二地域居住だけでなく、住宅取得が難しい地元の低所得の若者等に対し、安価で購入できリフォームできるような補助金などがあれば定住しやすいのではないかと思う。	定住
54	会津地域	意見発表者	会津若松市等の観光的な町並み整備も良いが、周辺市町村にある観光地化されていない会津の普通の町並みも魅力的なので、そういう視点の町づくりができたら良いと思う。	地域づくり
55	会津地域	意見発表者	地元の人が地元を知って好きになり、地元の中で観光できる取組ができたら良いと思う。	観光・交流
56	会津地域	意見発表者	会津が生き残り、また、会津に住む人が地元に魅力と誇りを感じるためには、早急に着手しなければならない部分と、時間をかけてでも無くさず守り通していかなくてはならない部分があると感じている。	地域づくり
57	会津地域	意見発表者	奥会津では、産業も観光も今無くなってしまったら取り返しがつかなくなるのではという危機感を感じる時がある。（実際に廃業を考えているという話が上半期で2件ある）	産業・雇用
58	会津地域	意見発表者	奥会津では、風評被害と只見川の実害で相当なダメージを受け、数字では表せない部分が強い。関東方面には既に復興したと思われており、忘れられている印象がある。	観光・交流
59	会津地域	意見発表者	DCキャンペーンは悪くなかったが、本当の観光はこれからであり、今ある補助金を少しずつでも継続してもらうことが必要である。 奥会津を周遊してもらうためには、磐越道に高速バスの降り口がほしい。そこから2次交通で繋げたい。 会津には良い素材がたくさんある。震災前から地元の素材を積極的に活用しており概ね好評であるが、震災で地元素材が使えない部分は少し痛手である。	観光・交流
60	会津地域	意見発表者	補助制度などにより、奥会津にもインバウンドの動きがあるが、補助制度が無くなると一過性で終わるのではないかと不安がある。また、奥会津でインバウンドを受け入れる課題として、二次交通を確保できないことがあり、他地域と比較すると遅れを感じる。	観光・交流
61	会津地域	意見発表者	奥会津の買い物困難者への宅配支援を行っているが、大事なことは、その地域の人のことをいつも考えているということであり、その地域の人が自分の地域を捨ててしまってはいけないと思う。	地域づくり
62	会津地域	意見発表者	6次化は販路を作るのが困難、そこに支援が必要。	農林水産業
63	会津地域	意見発表者	交流人口を拡大させるため、外からの視点で地域資源を掘り起こしてイベント化しているが、来た人にとっての魅力は地元の人との交流であり、それがリピーターやファンに繋がると思う。また、来た人に喜んでもらえることで、地元の人の意識も変わり元気になっていると実感している。	観光・交流
64	会津地域	意見発表者	アートプロジェクトで7戸しかない集落にアーティストやスタッフが入り活動しているが、若い人が来ることで集落の高齢者が非常に元気になっている。今後、ボランティアをしたい都会の若者などをマッチングして集落に派遣できるような仕組みを考えたいと思っている。	観光・交流
65	会津地域	意見発表者	イベントの集客には、地元の人に会ってもらえる仕掛けや、ユーモアが重要。また、1市町村だけではなく、他県や他市町村など、広域連携することによる効果を実感している。	観光・交流
66	会津地域	意見発表者	地域おこし協力隊を見ても、その地域に来たかったという人よりも、やりがいのある仕事ができるということがきっかけで来る人の方が多いように感じる。そのためには仕事があることが大事であり、門戸を開いてその仕事とともに、こういう形で移住ができるというメニューが用意できれば移住者は増えるのではないかと思う。仕事があれば移住に繋がり、空き家対策にも繋がる。	産業・雇用
67	会津地域	意見発表者	農業は高齢化とともに後継者不足が課題となっている。また、6次化についても販路がわからないという現状がある。会津という知名度はあっても、各市町村名まではわかないという話もあるので、会津地域全体で会津というブランド名を生かせるよう連携すべきと考える。	農林水産業
68	会津地域	意見発表者	課題は「流通」と考える。地産地消を試みても、県内のものが当日に入荷しない。朝採ったものはその日のうちに使いたいが、それができない状況。	農林水産業
69	会津地域	意見発表者	総合計画の施策について、大きな目標があって、その達成のために連携した繋がりのある事業を展開していくべきだと思うが、その繋がりが見えない。各地域で面白いことをしても単発的になってしまい生かしきれない状態になっていると思う。	その他

70	会津地域	意見発表者	インバウンドについて、日本人が100％安心して来ない地域に、インバウンドを呼ぶというのもハードルが高いのではないか。また、教育旅行について、小中高生の選択肢は保護者にあり難しいと思うので、選択肢のある大学生を対象にすべきと考える。やはり、戦略を立てた上でお金を使うべきである。	観光・交流
71	会津地域	審議会委員	雪の関係で冬の観光は課題であるが、逆に、雪や田舎の冬の食べ物等に魅力を感じる方もいるので、冬の観光もより一層考えてみてはどうかと思う。	観光・交流
72	会津地域	審議会委員	計画の中の、特に流通に関して実行する手立てが少ないように思った。	その他
73	南会津地域	意見発表者	下郷町で唯一人口が増加しているのが大内宿である。人口増の理由としては、「都会に出ても戻ってこれる土台（仕事・誇り）がある」と言うことが挙げられる。	定住
74	南会津地域	意見発表者	観光客を誘致してきても、案内するガイドが足りていないというのが現状。観光ガイド業だけで生活できるだけの収入を確保することも大事なのでは	観光・交流
75	南会津地域	意見発表者	県として、ガイドを増やす施策も必要なのではないか。	観光・交流
76	南会津地域	意見発表者	南郷トマトの農家が、山間部で一つの産業として成り立っている理由は、新規就農者が多いためである（生産者の2割強をIターン者が占めている）。	農林水産業
77	南会津地域	意見発表者	産業を成り立たせ、発展させるためには、新しい力をどれだけ受け入れることができるか、その受け皿を用意することが重要である。そのためにも、情報の発信・魅力の掘り起こしを地域外に実施しないといけない。	産業・雇用
78	南会津地域	意見発表者	福島県に「良い」ものは沢山あるが、「日本一」はない。	その他
79	南会津地域	意見発表者	子どもたちに「ここに残れ」と言うからには、魅力のある仕事に関わらず、生活をするための基盤を我々がつくりあげないといけない。子どもたちの将来の生活を守らないといけない。	地域づくり
80	南会津地域	意見発表者	不慣れな移住先でも「地域の中で当事者意識を持つこと」が大事だと思う「毎朝、家の前の歩道の除雪をして、子どもたちの通学路を確保した」といった小さなことでも「地域の誰かの役に立っているんだ」と思えることで「地元愛」を持つことができる。	定住
81	南会津地域	意見発表者	宿泊施設として東京からの宿泊利用者を呼ぶことが多い。その中で「新しい観点」を得る事が多い。	観光・交流
82	南会津地域	審議会委員	子育てをする人のストレスの緩和に努めている。「良い環境をつくって子育てをしてほしい。」という内容でイベントをしたことも。こどものために頑張っているのは親。その部分をよく考えなければいけない。	結婚・出産・子育て
83	南会津地域	審議会委員	寿命が延びても、寝たきりでは楽しくない。なので、健康寿命を延ばさないといけない。30代、40代の生活環境によって健康寿命に影響してくるはず。	健康・医療・福祉
84	南会津地域	審議会委員	総合計画を「壮大なものだ。テーマが大きすぎるから、自分には関係ない」と思わず、身近な問題に当てはめて計画を活用してもらいたい。	その他
85	南会津地域	意見発表者	産業としてこの地域をみると、まだまだ鉱脈が眠っている。掘り起こせていないだけなのではないかと思う。	産業・雇用
86	南会津地域	意見発表者	人口が減少していく中で、教育旅行や農家民宿をどのようにしていくか等の対策が必要。	観光・交流
87	相馬地域	意見発表者	同じものが並んでいても福島のものは買われない。本当にいいものを作っていれば必ず売れる。有機栽培農家の復活を若い世代でやらねばならない。新規就農希望者も多い。ここにしかないものとして、「相馬どだれ」（40年前くらいに作られていた伝統野菜）を今年から育て復活させ、相馬の強みにしたい。	農林水産業
88	相馬地域	意見発表者	再エネに関して、洋上浮体式は実証事業であり、結局は東京本社の大企業に利益がいってしまうため、地域の人間が仕事を作っていくことが大事。	産業・雇用
89	相馬地域	意見発表者	南相馬市、川内村、新地町は移住の実績もあり政策もあるが、県は移住政策が弱い。	定住
90	相馬地域	意見発表者	インフラ、ハードも大事だが、人材と人口が大事。 相双地区はある程度一定の塊で浜の近い者同士、様々なつながりを利用し協力し合えばよい。	定住
91	相馬地域	意見発表者	一過的に終わるつながりではなく、いただいた縁をいかに点から面にしていくかが重要。	定住
92	相馬地域	意見発表者	小さなコミュニティを作るためには補助金が回ること、地元のよさを出していくことが必要	地域づくり
93	相馬地域	意見発表者	原発事故により、山菜採りが出来ない、薪で風呂がたけないなど安心した暮らしができない。小さい子どもがいると心配になる。そういったところへの対応が必要。	環境回復
94	相馬地域	意見発表者	学べる場所、記念館など県内につくれないか。	避難地域
95	相馬地域	意見発表者	避難者同士、地域活動に参加できるような状況になってきた。全国から視察などくるが、受入体制が全然ないので拡充が必要。	避難地域

96	相馬地域	意見発表者	イノベーションコースト構想など、地域でももっと知って参画したいが何ができるかわからない。商工会など通じて情報提供いただきたい。	産業・雇用
97	相馬地域	意見発表者	ソーラーパネルの設置など増えているが、その設備のメンテナンスなど地元の事業者が仕事として担えないか考えている。	産業・雇用
98	相馬地域	意見発表者	生活再生の部分で、役場等の機能は戻っているが、住民は追いつけていない。特に小売、飲食などサービス業は住民がどの程度もどるか見えないと戻れないことが課題。	避難者支援
99	相馬地域	意見発表者	流出した仕事を戻すにはもう少しかかる。BtoB(企業間取引)を含め、横のつながりも必要。働き手も少なくなっており、村外定着の人の通勤や除染による単価のギャップを埋める補助などもあればよい。	産業・雇用
100	相馬地域	意見発表者	インフラの部分で受入体制が少ないこと課題。村には不動産屋もなく、空き家バンクもない状況。	地域づくり
101	相馬地域	意見発表者	平成30年に小中一貫校が再開するが、空いた小学校をどうするか課題。企業のコワーキングスペースなど受入が大切。	教育
102	相馬地域	意見発表者	教育ではコミュニケーション研修など実施すべき。	教育
103	双葉地域	意見発表者	双葉地域では交通量が多く、歩行者が危険にさらされている箇所がいくつか見られる。「安全・安心」の項目では、放射線と医療しか記載されていないが、交通安全の記載も必要ではないか。	避難地域
104	双葉地域	意見発表者	「コミュニティの維持・再生」について、自身が活動する伝統芸能活動で後進を育成したくとも該当する助成金等がなかなかない。行政として助成の幅を広げるなどの対応をして欲しい。	地域づくり
105	双葉地域	意見発表者	内水面の漁業組合は補助事業の対象から除外される場合があるなど、沿岸漁業に比べ、特に不利な状況にある。	農林水産業
106	双葉地域	意見発表者	双葉地域のそれぞれの町村は、自分の町村のことで手一杯になっており、他の町村や相双地域全体、県の動きが見えていない。もっと広域的な視点で復興を進める必要がある。	避難地域
107	双葉地域	意見発表者	自分自身は震災後に起業をした。震災前から事業主であった方への支援制度は充実しているのだが、震災後に起業したへの支援も手厚くすべきではないかと考える。	産業・雇用
108	双葉地域	意見発表者	仮設住宅や復興住宅を建設する際、行政は被災者一人一人の立場にたって建設しているのか。もう少しきめ細やかな配慮が必要である。	避難者支援
109	双葉地域	意見発表者	「原子力に依存しない産業の振興」について、どうしても「原子力に関する産業」のように感じてしまう。「原子力に関係しない大きな産業」を検討し、振興を図ってもらいたい。	産業・雇用
110	双葉地域	意見発表者	地域別の取組について、進捗状況や昨年度の実績などの数字を見ただけでは分からない部分というものは多々あると思う。(例えばスクールカウンセラーの相談件数も)平成27年度の実績だけ記載しても前年度はどうだったのかなど、全体が見えてこない。また、件数は減っていたとしても、内容の深さなど件数の増減で計れないことある。このような単純に数では把握できない部分についても、調書や資料に記載して欲しい。	健康・医療・福祉
111	双葉地域	意見発表者	原子力損害賠償に係る巡回法律相談についても、原発事故後すぐに避難し、「遺失」もしていないということで、話すら聞いてもらえず門前払いであった。	避難者支援
112	双葉地域	意見発表者	復興住宅に関しても、双葉町はいまだに検討しているところである。なぜ県や国、市町村はもっと早く動けないのか。	避難者支援
113	双葉地域	意見発表者	「地域の復興を加速するインフラの復旧・整備」について、浪江町内にも、狭く走行しづらい箇所が多々見られる。除染作業や復旧工事関係の車両が多い現状や、今後中間貯蔵施設への搬入も始まることなどを勘案すると、早期に整備することが必要である。	インフラ復旧・整備
114	双葉地域	意見発表者	「地域の特性を生かした農林水産業と過疎・中山間地域の再生」について、震災から5年が経過したが、震災前に農業を生業にしていた人も、この5年間別な場所で農作業をしていたなら別だが、狭い仮設で暮らしていた人にとっては「帰還できるようになったから、村に戻って農業してください」といってもブランクがあってそう簡単に復帰できるものではない。	農林水産業
115	双葉地域	審議会委員	インフラの整備などは復旧・復興の進捗が目に見えてわかりやすいが、被災者のニーズにどれだけ耳を傾けられているかということが、今後さらに長期化するであろう避難においては重要な課題である。	インフラ復旧・整備
116	双葉地域	審議会委員	資料1について、数値がなかなかわかりづらい。人口比に対する指数であったり、福島県の数値に対して、相双地域はどれだけ違うのか、といった表現にしたほうが伝わりやすいのかなと思う。	その他
117	双葉地域	審議会委員	もとの地域に戻す(住民の帰還を促す)ことばかりではなく、今後は新しい人たちで新しいまちづくりをすることも考えなければならない。	地域づくり
118	双葉地域	審議会委員	地域の新しいリーダーの育成も課題のひとつ。今までは地域を取りまとめる役割をお年寄りに任せっきりにしてきていたが、今後は新しい人にその役割を託さなければならない。	地域づくり
119	双葉地域	審議会委員	風評被害もいまだに根強い。放射線に対する正しい知識を、県民自らが学習し、県外へ発信していかなければならない。福島県民は「自分たちでやらないと誰もやってくれないんだ」という意識が足りないと感じる。「オール福島」で取り組んでいく必要がある。	風評・風化

120	いわき地域	意見発表者	いわき地区においてはプチバブルが発生しているが、現在の市場は避難されている方をターゲットにした市場のようであり、今後収束が見込まれる。産業をつくり、市場の育成を図ることが必要。	産業・雇用
121	いわき地域	意見発表者	昨年東北地方の農業者300人の集う会に参加した際、福島県の全量全袋検査を知っている人は30人未満であることを知った。近隣県の同業者でもこの状況。農産物のモニタリングは徹底しているが、まだまだ情報発信が足りない印象。	農林水産業
122	いわき地域	意見発表者	保育所で苗を育て、収穫し、給食で一緒に食する取組を行っている。福島県の農産物は絶対に買わない、という親もいる。しかしこどもの世代には、福島県の食物は絶対に安全安心だと伝えたいという心持ちで取り組んでいる。	農林水産業
123	いわき地域	意見発表者	小規模事業者の経営状況は良いとは言えない。事業継承も課題。経営課題として、売上拡大策、販路拡大策、人手不足対策があげられる。	産業・雇用
124	いわき地域	意見発表者	原発事故収束に向けた新たな技術及び産業の集積が、新たな雇用を創出し、地域の企業の育成となる。	産業・雇用
125	いわき地域	意見発表者	新たな技術及び産業の集積及び雇用環境の整備のためには関係行政機関及び金融機関等との連携と共同作業による各種の支援が不可欠。	産業・雇用
126	いわき地域	意見発表者	東日本大震災の影響により、地域の形が大きく変わり、地域の中で無関心というものも多く発生。地域コミュニティの喪失が加速され、集落自体が消滅するというような可能性も考えられる。地域内で住民同士が支え合う事が必要。	地域づくり
127	いわき地域	意見発表者	小名浜の人口はH22年比5,000人ほど増えている。しかし観光交流人口が減っている。平成27年に常磐自動車道全線開通で、終着から通過点になったのが大きいと考えている。	観光・交流
128	いわき地域	意見発表者	高校生に聞けば、小名浜には学習施設がないとのこと。いわき市内における学習施設の偏重が問題ではないかと考える。	教育
129	いわき地域	意見発表者	イオンモールの出店により、交通渋滞や路線価格の上昇、インフラ整備、治安の維持、犯罪抑止等の新たな課題が想定される。	地域づくり
130	いわき地域	意見発表者	県職員がまちづくり団体へ出向し、悩み等の共有を図ることが、地域の思いを施策へ反映することに繋がると考える。	地域づくり
131	いわき地域	意見発表者	永続的な賑わい創出の切り札として、改正中活法による中心市街地の認定を受けたいと考えている。都市福利施設の整備、街なか居住の推進、市街地整備の改善、商業の活性化、この4つを行うことにより、賑わいの創出、地域の元気を取り戻すことができると考える。	地域づくり
132	いわき地域	意見発表者	仮設住宅の使用期限の1年ごとの延長といった長期ビジョンを欠いた施策が、避難生活を送る方達にとっては、非常にストレスとなっている。長期ビジョンに立って先を示すことが必要。	避難者支援
133	いわき地域	意見発表者	原発避難者に対する支援と、いわき市民の津波地震被災者に対する支援の格差が地域の中に混乱を生んだ。この格差が住民同士の交流を阻んでいる。今年度からのコミュニティ交流員の事業の契約時に、周辺の住民も視野に入れた支援を提案し、採択されたので、今後は、そこに連動する形で、交流が深まるような企画を実施していく。県側の資金面だけでない積極的な関与を期待する。	避難者支援
134	いわき地域	意見発表者	避難自治体が帰還に向け動きを早めている中、仮設住宅入居者の中には、本当に帰って大丈夫なんだろうかという不安がある方もいる。その方達の気持ちに寄り添うような支援が必要。	避難者支援
	いわき地域	意見発表者	被災者避難者の支援団体に関しては、財源が非常に厳しくなってきている。	避難者支援
135	いわき地域	意見発表者	首都圏をはじめ1万5千人の方が、福島、いわき、広野町等に足を運び、無農薬で行うコットンの栽培を通し、地域の農業者と交流を進めている。単なる観光とはまた違った、本物の交流を生み出せる観光と言える。この交流での課題は、市内に20～30人規模の来訪者を迎え入れることができるような施設がないこと。	観光・交流
136	いわき地域	意見発表者	都市の交流の拠点が中山間地や沿岸の農地等に設けられれば交流がスムーズになるが、その土地が農振農用地であれば設けることが難しいとのこと。規制を緩和してでも人が農地に関わりを持つ流れを生み出したい。	観光・交流
137	いわき地域	意見発表者	震災復興の目的での地域おこしを含め、磐城高箸とのコラボ企画「眠り杉枕」のような県内事業所でのコラボ企画等の取組については、県にもPRや販売促進へ協力をお願いしたい。	観光・交流
138	いわき地域	意見発表者	何もないところ、というイメージだったが、認識を改めた。この自身の経験から、まだまだ知られていないところも知ってもらいたい、という思いで、大々的に知られているところではないところも多く含まれているツアーを組んだりしている。あまり知られないいわきをPRしていくことが必要。	観光・交流

139	いわき地域	意見発表者	市場では他県産と相違のない価格で取引されている。ただ、値崩れするような状況の時に敬遠される事がある。本格操業へ向け風評対策の充実とブランド力の強化が不可欠であり、そのためには安全性についての情報提供と効果的なPRが必要。福島県産品の安全性の情報提供に関し、行政には正確な情報と多くの消費者に理解してもらえる取組強化を期待する。	農林水産業
140	いわき地域	意見発表者	この6月にヒラメの出荷制限が解除となり、秋からの漁獲開始に向けた検討が始まっている。震災前、本県のヒラメは全国上位の漁獲量を誇る主要魚種の一つであった。近年価格の低迷は伝えられているものの、この機会に、行政と連携してPRすることで、ヒラメだけでなく、本県の水産物全体のイメージアップに努めて行きたいと思っている。	農林水産業
141	いわき地域	意見発表者	中小企業の育休に対応する応援メニューを行政が提供していただけるとありがたい。例えば、人材派遣会社と提携して育休期間のみの人材サービスの提供メニュー。	産業・雇用
142	いわき地域	審議会委員	震災後の複雑な問題は現存する。若い方に限らず市民全体で地域向上の活動をしていくことが重要と感じた。	地域づくり
143	いわき地域	審議会委員	意見を伺い、学生が好み、学生から選ばれる企業になることも、素敵なことと感じた。こども世代に大人たちの活気ある姿をみせること、これは必要。こどもの意見を吸い上げ、受け止め、その中から何かできることはないか、応援していくにはどうしたらいいのかを考えていくことが大切。	産業・雇用
144	いわき地域	審議会委員	医療・福祉人材に関し、若者メンタルのフォローが必要であること。	健康・医療・福祉
145	いわき地域	審議会委員	小名浜には学習施設がないのが現状。がんばろうとしている若者を応援できない状況。やる気のある学生を大人が応援するためにも、学習のための場所と機会を提供する必要がある。学習施設に市内企業の紹介もマッチングされたような施設があるとなお良いと考える。	地域づくり

（2）テーマ2（県全体の課題） 若い世代の地元定着・地元回帰に向けた課題や取組、方向性など

No	地　域	発言者	意見等	分　野
1	県北地域	意見発表者	飯坂では、農業の後継者が戻ってきたり、新規就農者が県外から来たりしているが、遊休農地が多く、やめる人も多い。商店、観光も後継者がいないと辞めてしまうところも多い。後継者確保のため、観光客の呼び込みも必要であると考える。	産業・雇用
2	県北地域	意見発表者	福島に住んできちんと生活できる体制（仕事のやりがいと金銭面での安心）が必要。	定住
3	県北地域	意見発表者	職業を選択するときに、小さいときから色々な選択肢を準備し、能力の高い子たちを育てていくことが重要。	教育
4	県北地域	意見発表者	移住、進学、就職、子育てなど福島県にくるタイミングは色々あると思うが、進学、就職の時点で福島県を選ぶのはなかなか難しい。	定住
5	県北地域	意見発表者	子育てのために帰ってきたい人、なぜ戻るかというと、「住みやすい」「地元が好きだから」という意見が出る。子育て環境や教育支援の充実も重要。	定住
6	県北地域	意見発表者	県内に就職する子は多いが、離職する割合もかなり高いという。就職者のフォローも必要。	産業・雇用
7	県北地域	意見発表者	（県外には）福島県に心の安心を求める人、地域づくりをしたいという人も多く、首都圏などで情報発信と機会の提供を行っていくことも重要。	定住
8	県北地域	意見発表者	最近の若い世代は、休日や余暇の過ごし方にこだわりのある人が多く、SNSやtwitterで自分の活動をPRするなど、承認欲求が強い。そういう世代を対象としたフェスやイベントがあってもいいのではないか。	観光・交流
9	県北地域	意見発表者	若い世代の定着にはやはり就労の場の確保が重要。	産業・雇用
10	県北地域	意見発表者	（Iターンの方）自分もそうだったが、県外の相談所などでは、福島県に移住したい人が知りたい情報（月いくらくらいで生活していけるのか。など）があまり出ていない。	定住
11	県北地域	意見発表者	（県外に進学・就職）戻りたい人は実際に暮らしている人を素敵だと思わないと戻らない。福島に今いる若い人たち（中高生など）が親の背中をどう見ているのか、どのように考えているのか。施策を考える上で若い学生の意見が重要。	定住
12	県北地域	審議会委員	震災前まで飯舘村は福島県で一番出生率が高かった。これは、村の施設が充実していることもあるが、二世帯・三世帯同居が多かったため、総世帯収入が他自治体より高く、子育て環境が整っていたから。	結婚・出産・子育て
13	県北地域	審議会委員	年収300万円が既婚率の分かれ目と言われている。結婚する場合、正社員同士、非正規雇用同士という組み合わせが多い。非正規同士の場合、年収が300万円に満たないことも多いため、こどもを2人持つことは厳しい。やはり最後は経済力が重要。	結婚・出産・子育て
14	県北地域	審議会委員	今後は、「地域おこし」を経済力へ結びつけていくことが重要。均衡ある経済の発展と経済的弱者をつくらないために、自治体や金融機関がしっかり連携して取り組んでいかねばならない。（産学官金の連携）	地域づくり
15	県中地域	意見発表者	行政がもっと踏み込んで、働きながら子育てが出来る仕組みをつくらなければいけない。	結婚・出産・子育て
16	県中地域	意見発表者	「ターゲットを明確にした」施策が必要なのではないか。	結婚・出産・子育て
17	県中地域	意見発表者	都市型の子育て支援策として、商業施設内に保育所の隣で働ける「ママスクウェア」があるが、地方の、福島の子育て策は何があるか考えなければいけない。	結婚・出産・子育て
18	県中地域	意見発表者	地方でもできる子育て支援のモデルづくりを進めていく必要がある。例えば、「全国のシングルマザーが移住しやすい福島」というコンセプトも面白いと思う。	結婚・出産・子育て
19	県中地域	意見発表者	都市部から医療従事者を引っ張ってこれないのは、どこの自治体でも同じこと。いかに県民が県内で医療従事者として働いてもらうか、いかに子供たちに地域に残ってもらうかが重要。	産業・雇用
20	県中地域	意見発表者	子どもたちは、「地域のために生き生きと仕事をしている大人」の姿を見て、地元で働くことに憧れる。	産業・雇用
21	県中地域	審議会委員	高齢化に伴う後継者や担い手の育成は、民間団体だけでは難しく、県や市の協力が必要である。県や市が関連するセミナーや会議では、色々な業種・地方・年齢層の人を集めることができ、有益な意見交換の場ともなっている。	産業・雇用
22	県中地域	審議会委員	東京の高校生が浜通りを視察した際、「まだこんな状態なんですか。」との率直な意見を頂いた。福島県民が福島をPRするだけでなく、県外の人に福島を見て頂き、外へのアピールをした方が効果的である。	観光・交流
23	県中地域	意見発表者	働きながら子育てをしていくためには、働くお母さんの負担軽減が必要。例えば、日常的な買い物も、職場のインターネットを通じて購入し、職場で受け取れられるように出来ると、お母さんの負担となる時間が減る。そのためには、職場などの理解、風土の醸成が必要。	結婚・出産・子育て
24	県中地域	審議会委員	皆さんから意見が出ている「担い手の育成」を取組に反映していくべき。	産業・雇用

25	県中地域	意見発表者	起業意欲がある人にとっては、福島はチャンスの地である。 沖縄県では、将来的に地元に戻ってくる人は多いが、就職率が悪く、事業を興す人が多い。福島も、同じ様に「やる気のある人が事業化しやすいふくしま」を目指すべきでは？	産業・雇用
26	県中地域	意見発表者	やる気がある人にとっては、福島はチャンスの地である。（自らのIターン・企業の経験を踏まえて、20代でも事業を興こせる環境。）震災により出ていた人を戻すよりも、やる気がある方を呼び込むことが重要なのでは。	産業・雇用
27	県中地域	意見発表者	（農業体験をきっかけにIターンした経験を踏まえて、）若者の向け、若者に受けの良い内容でPRすべき。また、首都圏からのアクセスの良さもPRすべき。	その他
28	県中地域	意見発表者	地元に帰ってくるために必要なものは4つ。①人：「郡山を変えたいと熱い想いを持っている人と出会えた」、②志：「福島でどういう夢を描こう」、③誇り：「地元が好き」、④戦略：「官民で描く具体的なロジック」	定住
29	県中地域	意見発表者	農業特区をつくり、移住してきた人や新規就農したい人にとって生活しやすい様にしてほしい。	農林水産業
30	県中地域	意見発表者	東京のIT企業で働いていたが、「自分が誰の為に働いているのか分からない。」と、会社を辞めて移住してきた社員がいる。その社員曰く、東京に比べ、地方だと「お客様の顔・自分の成果」が目に見える仕事が多いので、やり甲斐は大きい様である。	定住
31	県中地域	意見発表者	地元高校生を対象に、病院での職業体験を毎年夏休みに実施。実績として地元定着に繋がっているかは分からないが、地元の若者に「地元の」様々な職種を経験させるチャンスである。	産業・雇用
32	県中地域	意見発表者	新卒者を受け入れるためインターンを実施しているが、最終的に建設業を選ぶ学生が少なくなっている。俗に言う3K（きつい、汚い、危険）のイメージが払拭出来ず、避けられやすい。そのイメージを何とか払拭しなければいけないと思っている。また、地元企業の情報発信も必要。	産業・雇用
33	県中地域	意見発表者	新生プランは「若者」に関する記述があまり押し出されていないように見える。	その他
34	県中地域	審議会委員	小さい頃から、ものづくりや地元の企業と触れ合う事が長期的に見て重要である。	産業・雇用
35	県中地域	審議会委員	社会減については明確な理由があり、「単純に減っている」ではなく、「なぜ減っているのか」をリサーチすべき。	その他
36	県中地域	審議会委員	福島県は高卒の就職者の離職率が全国平均よりも高い。これにも理由があるはずなので、引き続きリサーチをしてもらいたい。	産業・雇用
37	県中地域	審議会委員	脱原発の施策を明確にすることで、原子力発電の廃止を考えている自治体等の関係者が本県を訪れるきっかけづくりになるのではないか。	観光・交流
38	県南地域	意見発表者	思いついたアイデアを実行しようとしても、県・市・学校など、それぞれから許可を得ないといけない等、行政や学校の「縦割」の文化が事業実施の際の阻害要因となっている。	その他
39	県南地域	意見発表者	福島県ではまだ子育て（経済的、健康的な事）に対して不安感を持っている保護者が多い。	結婚・出産・子育て
40	県南地域	意見発表者	首都圏から若い人たちに来てもらうため、首都圏の人たちと地元の人たちを結ぶための「間の取り次ぎ（中間に立てる人）」が必要である。	地域づくり
41	県南地域	意見発表者	「今、やりたいことが出来ているのかな。」と疑問を持ちながら暮らしている女性が首都圏に点在しており、田舎暮らしに憧れる「移住女子」がブームとなっている。	定住
42	県南地域	意見発表者	移住するにあたっての問題は「仕事（生業）があるか」「楽しめるものはあるか」「子育ては問題なく出来るか」である。	定住
43	県南地域	意見発表者	飲食業界にとって、震災後、お客様と生産者との信頼はなくなってしまった。	風評・風化
44	県南地域	意見発表者	子どもに対する支援策を施行しても、大人が疲れた顔を見せてしまうと、子どもはその地域に未来を感じない。大人たちが地域で活き活きと生活している姿を子どもたちに見せることが重要。	地域づくり
45	県南地域	意見発表者	都会の生活に生きがいを感じられず、田舎暮らしに憧れる若者が首都圏に多く、「里山に住みたい」というニーズが首都圏には一定数ある。	定住
46	会津地域	意見発表者	何をもって若者か。道の駅のメインターゲットは57歳の女性層となっている。50代半ばくらいの方たちが安心して楽しく暮らせないところに若者は来ないと思うし、地方への流れという意味では50代でも十分魅力的であり、あまり若い人に絞り込むのは違うのではないかと思う。	観光・交流
47	会津地域	意見発表者	Iターンの方が会津に来たいというきっかけ作りを多角的に展開すべきである。また、地元の人がIターンの方の考えを理解して、評価して、吸収していくことが必要であり、そういう時期に来ていると思う。 定住の前提として、交流人口が増えていかないと、そこまで話はいかないと思う。	定住
48	会津地域	意見発表者	安くて重労働では若い人が安心して勤められないので、若い人を育てる視点で企業に対し何らかの制度があってもいいのではないかと思う。	産業・雇用

49	会津地域	意見発表者	小学校の頃、地元のおじいちゃん等から何気なく地元の魅力を学んだことが、いつの間にか自分の地元に対する誇りになっていて、会津に戻ろうという気持ちになった。	教育
50	会津地域	意見発表者	地元に戻って来たい時に、ハローワークだけではなく、中途採用でも好きな仕事に就ける何らかの支援があれば良いと思う。	産業・雇用
51	会津地域	意見発表者	本郷は本郷焼で有名だが、子どもの頃に訪れた時にはそれしかわからなかった。大人になってから本郷焼だけではない町並みなどの新たな魅力を初めて知ったが、もっと県外の人だけではなく、会津の人たちが会津を観光するようになってほしい。	観光・交流
52	会津地域	意見発表者	本郷の空き家をリフォームして作家に安い家賃で入ってもらい、物づくりの町、アーティストの町として整備し、若い人が独立して何か行えるような夢を応援する仕組みづくりができたら良いと思っている。	地域づくり
53	会津地域	意見発表者	若い人たちは、町におしゃれなカフェや雑貨屋などが欲しいと思う。若い人たちは、遠いところでも素敵なカフェ等があれば行くので、魅力ある飲食業を観光に繋げられたら良いと思う。	地域づくり
54	会津地域	意見発表者	若者でも二地域居住でも良いから、地域存続のため、とにかく住んで欲しいという思いである。	定住
55	会津地域	意見発表者	若者でも定年者の二地域居住でも良いから、地域存続のため、とにかく住んで欲しいという思いである。若者に限って言えば、夢を持っている人、企業精神旺盛な人に頼ってしまうことが多くなった。以前、Uターンする若者の雇用の場として起業したことがある。Uターンしてほしいという地元の人の気持ちと、具体的な雇用の場の創出、親の後押しなどがありUターンしてもらえたが、次々と課題もあるのですごく責任を負った気持ちにもなった。けれども小さくても企業が雇用し続けるということは大事だと思った。	産業・雇用
56	会津地域	意見発表者	定住に関して、即効性と言えば定年した人たちかもしれない。定年し定住している人は、地域の人と一緒に暮らすことや、隣家から野菜をもらったりする、地元では当たり前のことに魅力を感じているようである。こういう事もあるので、地元住民も行政等のマッチングを支援する意識を持ち、協力していくことも必要だと思う。	定住
57	会津地域	意見発表者	震災がきっかけでボランティア意識の高い人が育っている。また、理工学系の学生は福島県の放射線量の安全性を理解している。ガイナックスに来る若者のマニア層もある。大枠ではなく、それぞれの特性を理解した上で、若者を呼び戻す方向性を具体化したら良いのではないかと考える。	定住
58	会津地域	意見発表者	Iターンの若者を呼ぶ場合、ワンストップの窓口がはっきりしていると見つけやすいのではないか。自分は東京の田舎物件専門の不動産屋で会津を選んだが、東京にあるアンテナショップに県の空き家物件が提示されると良いかもしれない。	定住
59	会津地域	意見発表者	西会津では空き家バンクと移住定住総合センターが整備され窓口はできたが、実際の空き家の数があっても登録数が少ない。行政が整理してくれると提供しやすくなるのではないか。	定住
60	会津地域	意見発表者	仕事に関して、東京の1／3の給料だが出費も少ないので生活レベルは変わっていない。また、素晴らしい自然や人の繋がりがあるという魅力がある。その辺を含めたライフスタイル全体を提示することで、仕事以外の部分で魅力発信が可能だと思う。	定住
61	会津地域	意見発表者	会津で育った若者の定住またはUターンの方策としては、やはり教育だと思う。自分たちが育っている集落や町の歴史、自然、食物等の素晴らしさを小さい頃から教えていくことが重要である。	教育
62	会津地域	意見発表者	奥会津に若い人が戻ったと仮定して、次のハードルは子育てだと思う。人が少ないデメリットは、都会に比べて選択肢が少ないことである。例えば部活動の種類などもそうであり、大袈裟かもしれないが視野が狭くなるのではないかと思うので、知る機会を作るなど対策が必要だと考える。また、逆に人が少ないことにより各人に役割を持たせられることや責任感が養われるといったメリットもあるので、それを魅力としてアピールできなかいかと思っている。 さらに、スポーツや子育てなどでも市町村の枠を越えた広域的な連携が必要だと考える。	結婚・出産・子育て
63	会津地域	意見発表者	今の会津の高校生は遊ぶところがない。買い物も新潟や郡山に行く。そういう意味でも外向きになっていると思う。	地域づくり
64	会津地域	意見発表者	大学生の長男の周りは公務員志望が多い。給料も良いし子も親も安定を求めているからだと思うが、仕事に対しての費用対効果が大事で、これが東京と田舎の差がはげしいのだと思う。	産業・雇用
65	会津地域	意見発表者	若者は全国で奪い合いなので、地元に誇りを持つ教育をしていくか、給料を上げるかのどちらかだと思う。	その他

66	会津地域	意見発表者	組織で働いていた人は、定年して団体から個になると何をして良いかわからない人もいる。若者は煩わしいかもしれないが、近所のコミュニケーション等を心地よく感じる人も多いと思うので、若者だけでなく、そういう世代の移住等にも目を向けるべき。また、人が集まって何か一緒に行動できる第2のリビングルームのような場所が必要だと思う。	定住
67	会津地域	意見発表者	そのまちに携わる行政の方には、まちの実情や住民の意見を理解するためにも、便利なところから通うのではなく、できるだけそのまちに住んでほしい。	その他
68	会津地域	意見発表者	福島県は石橋を叩きすぎると思う。過去に新潟県から事業の相談を受けた際、同時期に福島県にも情報提供し提案したが全く動じなかった。結局、新潟県はすぐに事業化されたが福島県はその4、5年後に事業化された。今回の懇談会でもヒントがあると思うので、良い意見は取り入れ、果敢に行動してほしい。	その他
69	会津地域	審議会委員	南会津管内の新規就農者は過去5年間で42人だったと思うが、田舎での生活が自分の人生として幸せだと思えば来てくれると思う。	定住
70	会津地域	審議会委員	地震マップの中で、全国で1番安全なところとして会津地方（南会津）が挙げられている。これは売り口上に使えるのではと考えている。	定住
71	会津地域	審議会委員	人口減少により、各人の責任が重くなり、そこで暮らす人の生き方そのものが地域に反映していくので、将来をイメージしながら地域のことを考えていく必要があると思う。	その他
72	南会津地域	意見発表者	移住して最初にぶつかった課題は「住居」。郊外で住める一人くらいの物件はないかと探し、1ヵ月でようやく見つけた。	定住
73	南会津地域	意見発表者	医療に関しても、特に産婦人科や小児科を受診する際かなり不便を感じている。特に婦人科関係は近くにない上に平日にしかやっていないので、平日に仕事を休んで、しかも地力ではなく友人に連れて行ってもらうしかない。	健康・医療・福祉
74	南会津地域	意見発表者	20代は、共働きが当たり前という感覚の世代。実家が近くにない自分が将来子育てするようになったら、体調が悪くなったとき、どうやって子どもの面倒をみたら良いのだろうと不安になることがある。こういった状況のサポート体制をしっかりしてもらえれば、安心して仕事に取り組めると思う。	結婚・出産・子育て
75	南会津地域	意見発表者	南会津地域において女性の正社員の求人は、看護師や薬剤師といった「師業」がほとんど。独身女性が一人暮らしするには、かなりハードルが高い状況である。	産業・雇用
76	南会津地域	意見発表者	若者たちが定住しやすい地域になるためには、「専門知識がなくても就ける職が増えること」「アパートをもっと増やすこと」が必要である。	定住
77	南会津地域	意見発表者	現在の「空き家バンク」は、リフォームをしないと、居住できないような物件がほとんど。補助金制度があるのは分かるが、まず初めに払う一時金を用意するということ自体、若者には難しい。	定住
78	南会津地域	意見発表者	何より「雇用の場」を確保すること。また、団体を法人化することができないと若者は来てくれない。	産業・雇用
79	南会津地域	意見発表者	「大変だけれど、楽しさが感じられる農業」を作っていくことが、これから先は必要になってくる。	農林水産業
80	南会津地域	意見発表者	只見町は新潟県にとても近いのだから、「急患が出た時、会津若松市へ運ぶより新潟に運ぶ」というように県をまたいだ連携によって「医療人材不足」の解消を図るといったことも必要なのではないか。	健康・医療・福祉
82	南会津地域	意見発表者	ここでしかできない仕事（トマト、米焼酎等）、ここでもできる仕事（ICT等）を考えることで、職業は増えてく要素があると思う。それには、やる気のある人を支援する施策が必要。	産業・雇用
83	南会津地域	意見発表者	「空き家バンク」をつくるなど、移住者向けの家探しの支援を充実しなければいけない。農業希望者はアパートではなく農業用具の入る戸建てが欲しいなど、それぞれのニーズにマッチした情報を提供しなければ行けない。	定住
84	南会津地域	意見発表者	大内宿では、大人が働いている姿を生で見ることができる環境があり、見本、憧れになる大人が多くいる。	地域づくり
85	南会津地域	意見発表者	南会津にはタクシーが少なく、急病や出産などの事態が起こった場合、子どもや妊婦にとっては不安が残る。危険と隣り合わせ。	結婚・出産・子育て
86	南会津地域	意見発表者	中学校に通っている子どもは、通学に毎日、片道1時間（往復2時間）かけている。その姿をみた近所の小学6年生の子が「一日2時間もムダにしている」と感じ、祖父母がいる県外に出て行くことも考えている状況。「学校がない」ということは、早く自立させなければならないということなのか。	教育
87	南会津地域	意見発表者	仕事は実はある。しかし、地元の60歳を過ぎた方々に再雇用という形であてがうため、若者や外からの人たちに対して仕事があてがわれなくなっている。	産業・雇用
88	南会津地域	意見発表者	子育てをしながら雇ってくれるところがないため、子どもたちが働くことができる選択肢が増えれば良いと思う。	産業・雇用
89	南会津地域	意見発表者	南郷地域は祭りの時期に合わせて若者が帰ってくる。そういう時に就職相談室を開催するべき。	定住
90	南会津地域	意見発表者	都市部と中山間地域とでは「若者」の定義が異なる。細かく定義分けすることも必要なのではないか。	その他

91	南会津地域	意見発表者	Iターン組は、給料の面よりも「やりがい」を重視する。Uターン組は、収入面も重要視する傾向がある。	産業・雇用
92	南会津地域	意見発表者	若者に地元へ戻ってきてもらうには、中学や高校から「地元でもできる職業」に触れさせておくことが大事。新学科まで作らなくとも、課外授業などでも良い。	教育
93	南会津地域	審議会委員	高校生には「地元に戻ってこい」とは言わないことが大事。「機会」に触れさせれば、確実に高校生たちは、「戻ってこようかな」「福島っておもしろいな」と感じてくれる。若者には「押し付け」ではなく「知的好奇心」を刺激するようなコンテンツ作りが大事である。	教育
94	南会津地域	審議会委員	根拠に基づいた政策作りをすることが重要。何が課題なのかをしっかりデータとして「可視化」しなければならない。	その他
95	南会津地域	審議会委員	「コミュニティ」の認識の違いも理解しなければいけない。福島では「生活共同体」。東京では「生活の質を向上させるためのもの」。そのギャップをなくすことが必要である。	地域づくり
96	南会津地域	審議会委員	こちらから「これがあります」と押しつけると移住者は増えないが、「これを提供できます」というものを持ち、自発的に移住者が増えてくる仕組みを作る必要がある。	定住
97	南会津地域	審議会委員	将来のイメージをしっかりと掴んで生活をしていると、その姿が子どもたちや県外の人たちに伝わる。	その他
98	南会津地域	審議会委員	「うつくしい日本」や「観光」をアピールしているところは日本にたくさんある。それをふまえて何をするかが重要。「健康」と「地域」を結びつけたい。	観光・交流
99	相馬地域	意見発表者	東京事務所と提携し、拠点を持つべき。 福島を支援したいけど行けない人などのきっかけを作る。	地域づくり
100	相馬地域	意見発表者	直接話すことが一番よい。魅力あるイメージを具体的に示す。 東京から近くて素敵な田舎を分かってもらうことが大切。	定住
101	相馬地域	意見発表者	新規就農希望者は20～30人ほど来ている。応募はもっとあるが受け入れられない状況。受け皿があまりに少ない状況で、育ててあげる人も住む場所も足りていない。	農林水産業
102	相馬地域	意見発表者	新規就農希望者は仕事に疲れたサラリーマンや引きこもりの方などが多く、農業に希望を持ってやってくる。行政の大規模化の方向では都会から来てる人が帰ってしまう。	農林水産業
103	相馬地域	意見発表者	小さな事業所など跡継ぎがなく消滅してしまうところは多い。後継者としてIターン、Uターンの若者を呼び込めないか。事業主としての人材育成などそのステップを民間なり行政が埋めていく。小売店の方々が地域を作っていくのが文化だと思う	産業・雇用
104	相馬地域	意見発表者	色々な職業に人が足りていないことを知ってもらうことも大切。	産業・雇用
105	相馬地域	意見発表者	地元に残りたいけど残れない状況。残って生活ができるところを見せなくてはならない。この地区だからできることをみせる。	定住
106	相馬地域	意見発表者	地元の6次産業など小さなコミュニティができていけば、女性の働く場も確保され循環していく。	定住
107	相馬地域	意見発表者	戻ってくる人はTAXフリーにするなど、それくらい優遇されるものも必要。	定住
108	相馬地域	意見発表者	仮置場の管理業務など民間に仕事を落とせないか。	産業・雇用
109	相馬地域	審議会委員	総合計画について、現場に軸足を向けて考えていかなくてはならない。	その他
110	相馬地域	審議会委員	福島は豊かな暮らしをしているところだが、いる人は当たり前だと思い、一回外に出ると気づくことがある。発信力が低いところ。 ウケ狙いの発信ではなく、どんな暮らしが必要か求められているので、それを福島から提示していくこと。社会に問うていく条件を持っているのが福島だと思う。	定住
111	相馬地域	審議会委員	企業の魅力にも、産休をとりやすいとか子育てしやすいとか入れていかないと、福島県だから復興に向けてこういうことをやっていかないといけない。	結婚・出産・子育て
112	双葉地域	意見発表者	広野町には、首都圏の大学生を呼び込めるほどの大企業はない。中小企業に見合った地元回帰・地元定着の施策を取って欲しい。	産業・雇用
113	双葉地域	意見発表者	漁業組合では、学生に実際に現場を見てもらい、自然の良さを感じてもらうことで、町に携わってもらえるよう取組を行っている。	農林水産業
114	双葉地域	意見発表者	若い世代の地元定着・地元回帰について、現時点ではまったくピンとこないというのが現実。若い世代の地元回帰ということまでは全く考えていない。	定住
115	双葉地域	意見発表者	川内村は、子育てするのが大変な地域。高校生たちは、寮のある学校やアパートを借りて通学しているのが現状。せめて高校までは、川内に住みながら学校へ通いやすい地域にすべきである。このような状況で、「川内村に帰ってきて子育てして」とは、とてもじゃないが言えない。	教育
116	双葉地域	意見発表者	地元定着・地元回帰には、長期的に取り組まねばならないものだと思う。	定住
117	双葉地域	意見発表者	震災後に生まれた子どもたちは、避難先での今の生活に慣れ親しんでいる。しかし親たちは、まだ地元への愛着が強いままであることが多い。そういったことからも「県内7つの生活圏」において、地域同士の連携を大切に進めなければならない。	地域づくり
118	双葉地域	意見発表者	若者の定着は難しいことではない。若者を戻したければ若者に意見を聞かなければならない。若者が求めているのは「仕事、住むところ、子育てする環境は整っているか」ということ。	定住

119	双葉地域	意見発表者	浪江町は、町の3分の2が帰還困難地域という不安がある状況で、子育て環境という面でもなかなか戻れる状況ではない。	避難地域
120	双葉地域	意見発表者	今の子どもたちが親世代になる20年後30年後を見据えて、「住みたくなる町」にするための施策を焦らず着実に取り組んでいかなければならない。	地域づくり
121	双葉地域	意見発表者	雇用の面や税制面でも、他の地域にないインセンティブをつけるなどして、町に魅力を持たせることも必要なのではないか。	産業・雇用
122	双葉地域	意見発表者	川内村でのひとり親世帯の移住促進施策でもそうだが、ほんの一泊滞在してもらう事業でも人が集まらないのが現状。移住定住となるとさらにハードルが高い。魅力のある地域なんだということを情報発信していく必要がある。	定住
123	双葉地域	審議会委員	県内の学生の中には、将来福島で就職することを望んで県外からやってきた学生もいるし、「福島の現状を知りたい」と模索している学生もいる。こういう層への支援が必要である。	教育
124	いわき地域	意見発表者	地元の企業を知らないということが一番若者にとって大きな問題ではないかと考える。地元学生が地元企業について知り、キャリアビジョンを持てるようにするためにも、学生と企業の接点を作ることが必要。	産業・雇用
125	いわき地域	意見発表者	食育などの活動を通し、我々の世代が元気に楽しみながら活動する背中を子供達に見せることで、子供達が地元を好きになり、若者の定着に結びつき、さらに農業の担い手増加に結びつくと考える。	農林水産業
126	いわき地域	意見発表者	若者にとって魅力的な地域にするために、若い世代が自分で考え自分で実行することが必要で、それを行政がサポートするべき。大人が若者の理解をすることも大切。若者が何を求めているか、何をしたいか議論を交わすことでまちづくりが見えてくる。	産業・雇用
127	いわき地域	意見発表者	若者が定住する街とは、その地域の人が住んで良かったというまちづくりだと考える。行政により若者主導のワーキングチームを作るなど、積極的な取組をお願いしたい。	地域づくり
128	いわき地域	意見発表者	介護離職による人材不足が深刻化。介護職は精神的なフォローを必要とする職である。その働く側へのサポート体制が脆弱であり、若者の離職に繋がっている。	健康・医療・福祉
129	いわき地域	意見発表者	企業と行政が協働し、希望する業種とのマッチング体制を充実させ、ミスマッチを無くすことが若年者定着に効果的。安定して働ける職場環境の整備や改善に取り組むことも併せて求められている。	産業・雇用
130	いわき地域	意見発表者	若い世代の地元定着のため、県と企業の連携による新たなアプローチが必要。県が県内企業と連携し、求人を行っている企業の資料を全て集め、福島県の高校の卒業生にダイレクトメールで送ることが有効と考える。	産業・雇用
131	いわき地域	意見発表者	小学生のうちから地域についてもっと深く学ぶ、思い出に残るような取組が必要。地元で頑張っている人が多くいるということを発信すること、そして、地域で頑張っている大人のところに子供達が入れるような仕組み作りが必要。	観光・交流
132	いわき地域	意見発表者	漁業離れを防ぐためには、漁業が魅力的な職業である事が必要。そのためには所得向上や、就業環境の改善が不可欠。所得向上には、水産物の風評払拭やブランド化が必要。就業環境の改善としては、定期的な休日の導入や操業時の安全対策の充実を図っていくことが必要。給与等の条件の良い企業の誘致や、若者向け娯楽施設の整備、出産・子育てしやすい環境の整備等が必要。	農林水産業